

下大曾根遺跡 発掘調査説明会資料

2008年9月4日(木)
財団法人山形県埋蔵文化財センター

調査要項

遺跡名	下大曾根(しもおおそね)遺跡
遺跡番号	平成19年度登録
所在地	山形県最上郡鮭川村大字庭月字下大曾根
調査委託者	最上総合支庁(産業経済部農村整備課)
調査原因	経営体育成基盤整備事業(鮭川左岸Ⅱ期)
調査面積	6,000㎡(前期3,600㎡、後期2,400㎡)
現地調査	平成20年5月12日～平成20年9月9日
遺跡種別	集落跡
時代	平安時代・中近世
遺構	竪穴状遺構・土坑・井戸跡・溝跡・柱穴
遺物	土師器・須恵器・古銭・石製品・木製品 ・中近世陶磁器
調査担当者	調査課長 長橋 至 課長補佐 伊藤 邦弘 専門調査研究員 須賀井 新人 調査員 山木 巧
調査協力	山形県教育庁文化遺産課・最上教育事務所 鮭川村教育委員会・鮭川村農村整備課 鮭川左岸地区圃場整備推進委員会



調査風景

調査の概要

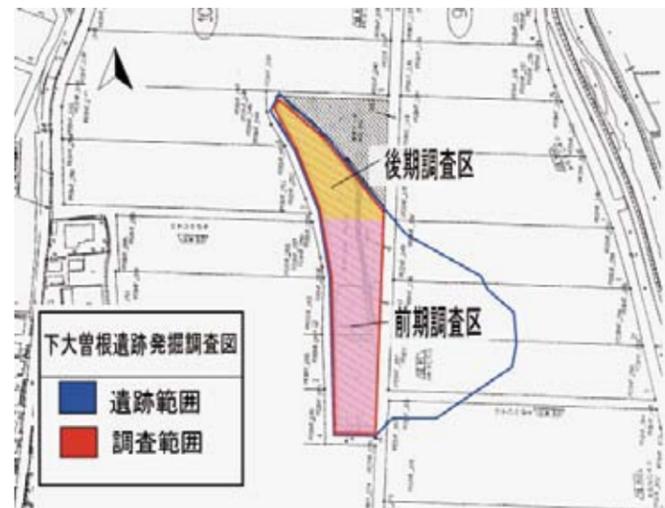
下大曾根遺跡はJR羽前豊岡駅の南西方約600mに位置し、平安時代の集落跡と推測される遺跡です。西側を流れる鮭川と、東側の最上内川に挟まれた微高地上に立地しています。鮭川左岸に開けた段丘面に当たり、現在の地目は水田や畑地となっています。

今回の調査は圃場整備事業に伴うもので、削平を受ける遺跡範囲の西側6,000㎡を対象として、5月12日から実施しました。なお、平成19年7月には遺跡を南北に通る農道部分(約1,000㎡)について、県教育委員会が先行して発掘調査を実施しています。

調査は事業工程との調整から南側を先行して進め、7月下旬にこの区域の引き渡しを経て、現在は北側を調査中です。遺構や遺物の分布は中央部から北側に多く認められています。



遺跡位置図(1:50,000)



調査概要図

検出遺構

見つかった遺構には、平安時代の竪穴状遺構・土坑・柱穴と近世以降の井戸跡や溝跡などがあります。約400基の遺構は、出土遺物が少ないために時代が明らかなものは一部に限られますが、平安時代に属するものは土器の形や種類などから、今から約1100年前の10世紀初め頃のものと考えられます。竪穴状遺構は6棟確認され、このうち4棟は南北方向に重複して検出されました。大きさは一辺2.5mほどの方形で、小規模なことから住居跡ではなく、納屋や馬屋であった可能性が考えられます。

土坑は大きさ深さとも様々ですが、S K67・68の2基からは土器がまとまって出土しました。また、この土坑には、西暦915年に青森・秋田県境の十和田で噴火した際に降下したと考えられる火山灰が堆積していました。

柱穴は調査区全域にわたって分布しています。中には等間隔で一列に並ぶものもありますが、建物跡として組み合わせるものは今のところありません。近世の遺構としては、東西・南北方向に掘られた溝跡や、大きな掘り込みで深さが2mを超える井戸跡と推測されるものなどがあります。



調査区南半の遺構完掘状況(北から)

出土遺物

遺物は平安時代の土師器・須恵器・黒色土器を主として、調査区からこれまでに整理箱7箱分の遺物が出土しています。

土器はほとんどが破片で、復元できるものは多くありませんが、煮炊き用の土師器の甕、貯蔵用の須恵器の甕・壺、食器である土師器や黒色土器の坏などが認められます。火山灰を含んだS K68土坑からは、ほぼ完全な形の土師器坏が出土しました。底部が小さく、器の高さが高い形で、口の部分が外側に広がっており、10世紀初め頃の器の特徴がみられます。

他には、中・近世の遺物として、碗・皿や播鉢の陶磁器類、古銭などがあります。また、周辺からの流れ込みと思われる縄文時代の石器や剥片も数点出土しています。

まとめ

下大曾根遺跡は、鮭川と最上内川による河間の自然堤防上に営まれた平安時代の集落跡です。周辺には縄文時代の小反遺跡や中世の上野遺跡など、鮭川流域の段丘に沿って遺跡が点在していますが、古墳～平安時代の遺跡が少ない最上地方においては、特に貴重な発見となりました。これまでの調査成果をまとめると、以下のようになります。

発見された平安時代の遺構は、10世紀初めを中心とするもので、竪穴状遺構6棟をはじめ、土坑や柱穴群などが見つかりました。調査区における遺構の分布状況や前年の試掘調査の結果から、集落跡の中心は調査区の東側に広がることが予測されます。この遺跡範囲東半は、圃場整備では盛土による工事が行われており、後世へ保存されることになりました。

出土した遺物は現在まで整理箱7箱ほどですが、竪穴状遺構や土坑・溝跡といった主要な遺構内から多くが出土したことにより、これらの年代を推定することができる資料となりました。また、火山灰が堆積した土坑から出土した土器類は、時期が明確なことから同時代の指標となり得るものです。

今回の調査により、この地が古来より住みよい土地であったことが窺えます。



土師器



須恵器



瓦質土器(上)・珠洲系陶器(下)の播鉢



中世陶磁器



調査区北側 遺構検出状況（北から）



土坑 (SK68) の掘り下げ



調査区中央の完掘状況（北から）



竪穴状遺構の調査



調査区全景（南から）



火山灰を含んだ平安時代の土坑 (SK68)



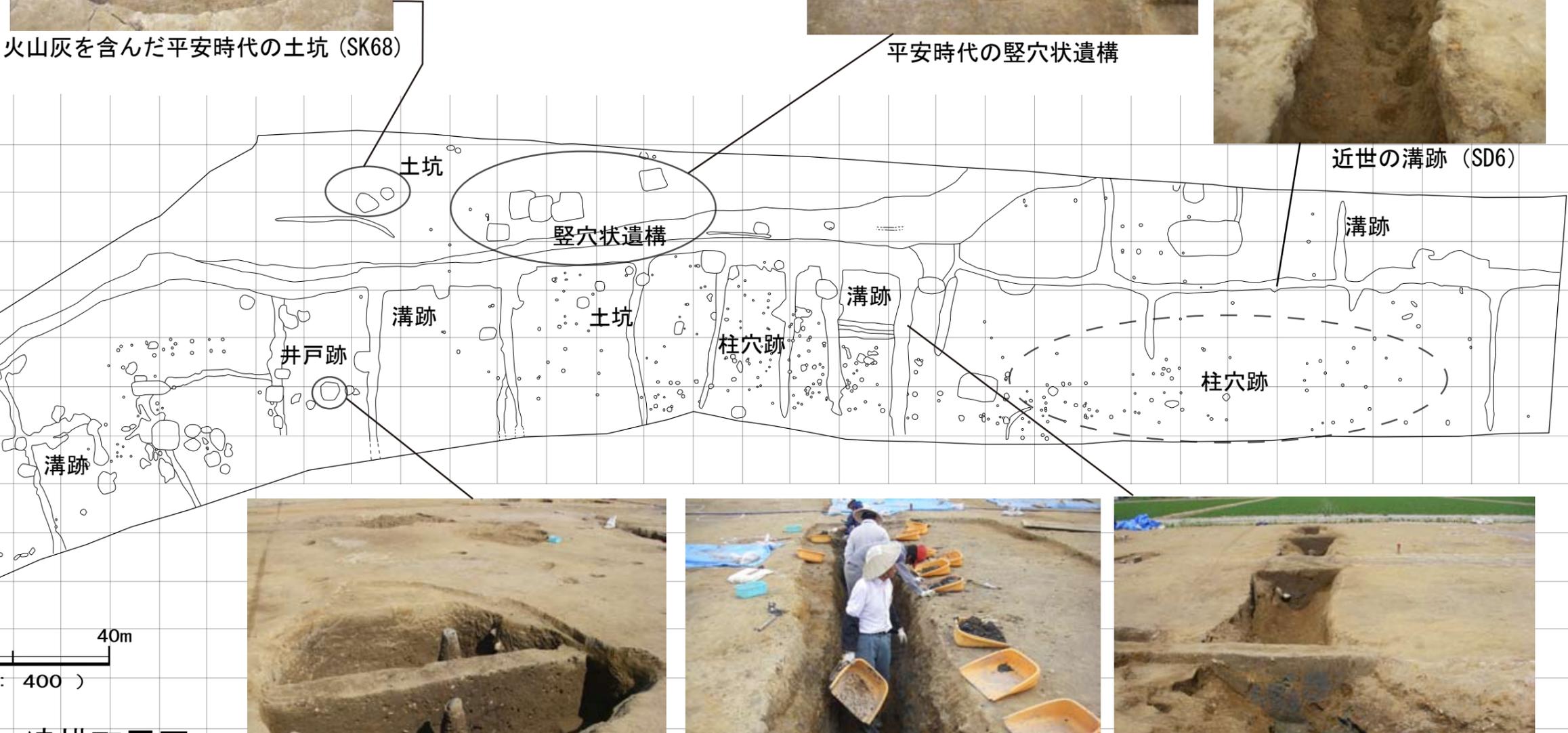
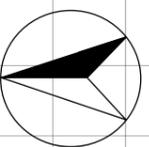
平安時代の竪穴状遺構



近世の溝跡 (SD6)



土坑 (SK133) 遺物出土状況



下大曾根遺跡 遺構配置図



井戸跡 (SK118)



溝跡の掘り下げ状況



東西に伸びる溝跡 (SD1)